

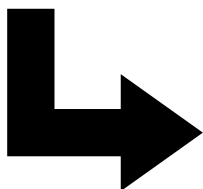
教育・保育施設等をご利用の保護者の方へ

慣らし保育（短い時間の保育）から始めましょう

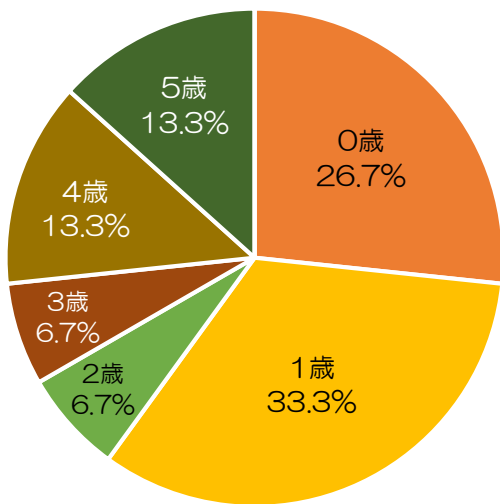
預け始めの時期に子どもの死亡事故が多く発生しており、その要因として、環境の変化から子どもに強いストレスがかかり、急な不調につながるなどのリスクが指摘されています。



預け入れる際には、お子さんの既往歴や性格の特徴、普段と預ける当日の様子の違いなど、ちょっとしたことでも施設へ伝えましょう。



教育・保育施設等における死亡事故

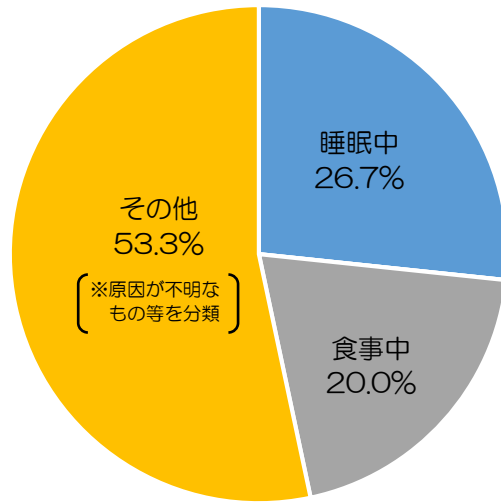


0歳・1歳児の死亡事故が約6割を占めている。

※ 内閣府子ども・子育て本部
こども家庭庁成育局安全対策課
文部科学省総合政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

「教育・保育施設等における事故報告集計」
(令和2年～令和4年)より

死亡事故発生時の状況



特に乳児は心身の様々な機能が未熟であり、成人と比べると鼻道や後鼻孔が狭く、気道も細いため、呼吸困難に陥りやすい。0～2歳児は顔が見えるように仰向けに寝かせ、子どもを1人にしない等の注意が必要。

※左記同様

預け始めの時期においては長時間の保育ではなく、徐々に保育の環境に慣れていくことが重要であり、事故発生の危険性を軽減するために、慣らし保育を取り入れ、短い時間から始めましょう。

保育環境におけるSIDS（乳幼児突然死症候群）を予防するために

SIDSの定義

それまでの健康状態および既往歴からその死亡が予測できず、しかも死亡状況調査および解剖検査によってもその原因が同定されない、原則として1歳未満の児に死亡をもたらした症候群

※SIDS 診断ガイドライン第2版/厚生労働省 SIDS 研究班



SIDSの病態

睡眠時における無呼吸状態からの覚醒反応の遅延によって起こる

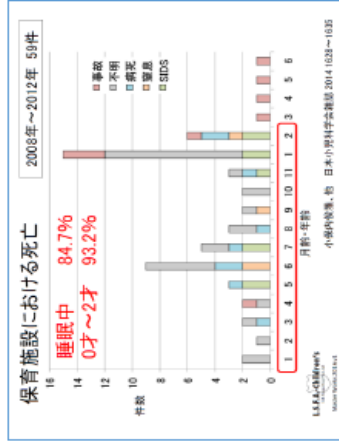
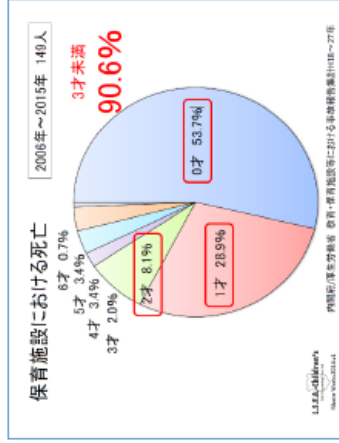
SIDSを予防するために（厚生労働省の見解）

- ① 「うつぶせ寝」は避ける（仰向けと比べ3倍のリスク）
- ② 「たばこ」はやめる（4.7倍のリスク）
- ③ できるだけ「母乳」で育てましょう（人工栄養は母乳に比べ4.8倍のリスク）
- ④ 暖めすぎ（うつ熱）は危険



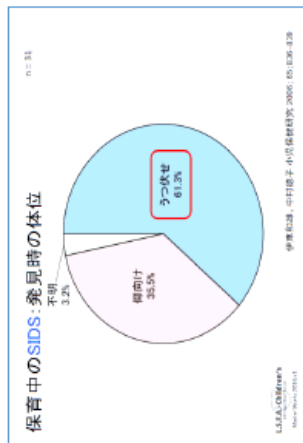
保育施設におけるSIDSの状況

「保育環境における突然死を防ぐために～一般社団法人 日本保育保健協議会～」



だから「0～2歳までは呼吸チェック」

だから「睡眠時の呼吸チェック」が必要



睡眠中の事故は、SIDSに関係なく

「うつぶせ」であったかどうか問われる

保育中のSIDS:発生当日の体調



発熱がある、ミルクの飲みが悪い、食欲がない、軽い風邪のような症状、機嫌が悪い、よだれ、元気がない、何となくいつもと子供の様子が変わる

保育環境における 外的ストレス要因

- ・ 預かり初期(初日、一週間、一か月)
- ・ うつぶせ寝(睡眠中)
- ・ 室温、寝具(うつ熱/睡眠中)
- ・ 体調不良、疲労(感染症、休日明けなど)

突然死防止のために保育施設ができること

(1) 睡眠中の呼吸確認

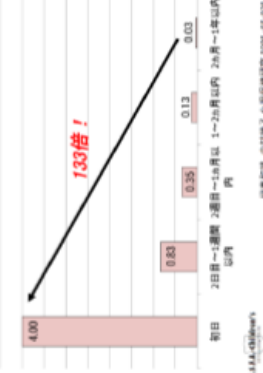
- ・ 定期的な呼吸チェック(何分ごと?)
- ・ 確認の仕方は?
 - こどもにふれてみる(ゆるやかな刺激)
 - 仰向き体位の維持
 - 寝具、室温管理

※睡眠中に実施すべきことを話し合しましょう

(2) ストレスの軽減

- ・ 預かり初めのストレスを軽減する
- こどもの状況を考えた慣らし保育
- ・ 感染症や体調不良を把握する
- ※具体的な方法を話し合しましょう

保育中のSIDS:預かり初期の危険性

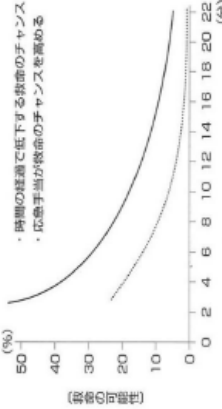


だからこそ「慣らし保育」の重要性

Triple Risk Model 三つともえのSIDS要因



図2



心臓と呼吸が止まってからの時間経過
戻らせたい人が救命処置をした場合
救命率が来るまで何もしなかった場合
(Blomberg M; Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 2009; 47:139-70, p.5-10(改定))

応急手当と救命由線

【参考】心臓と呼吸が止まってから3～4分以内であれば、心肺蘇生法で救命のチャンスは約50%ですが、それ以上時間が経過すればするほど救命率は下がります。15分を過ぎると約10%以下になります。
(応急手当講習テキストP. 2 応急手当と救命由線を参照)